

【概要版】日野町男女共同参画住民意識調査結果

I 調査対象

町在住の20歳以上の男女300人（男女・年代別無作為抽出）

II 回答者

144人（48.0%、男性46.7%、女性49.3%）

III 回答者の属性

1 性別

全体	男性	女性	その他	未回答
144	70 (48.6%)	74 (51.4%)	0 (0.0%)	0 (0%)

2 年齢階層

○回答者の年齢層は、60歳代以降が半数を占めています（男性54.3%、女性45.9%）。
男女ともに60歳代が最も多数を占めています（男性25.7%、女性18.9%）

3 自身の職業

○職業別では、「勤め人（正規）」「勤め人（非正規）」「無職」の順に多くなっています。

4 配偶者（パートナー）の状況

○回答者の81.1%が「既婚」と最も多く、配偶者の職業も「勤め人（正規）」「無職」の順に多くなっており、共働きの夫婦（世帯）が多いことがうかがえます。

5 世帯（家族構成）について

○「二世帯世帯（39.6%）」「三世帯世帯（20.8%）」が全体の6割を占めている一方、夫婦のみの世帯が3割を占めており、一番下の子どもは、「社会人」が50.0%で最も多く、回答者の81.2%に子どもがいます。

IV 結果の概要

1 男女共同参画に関する知識について

問8 あなたは次の言葉について知っていますか。

▼「日野町男女共同参画」の周知に課題あり

- 男女共同参画に関する用語のうち、「男女共同参画社会」「マタニティハラスメント」「ドメスティック・バイオレンス (DV)」については、「知っている」と答えた割合はそれぞれ70%を超え、「聞いたことがある」も合わせるとそれぞれ9割を超えており、認知度が高くなっています。
- 次いで、「ユニバーサルデザイン (52.8%)」「性的マイノリティ (46.5%)」の順となっています。
- 一方で、「日野町男女共同参画推進条例」を「聞いたことがない」割合は36.6%、「日野町男女共同参画プラン」を「聞いたことがない」割合も43.0%あり、周知への啓発・広報活動が課題といえます。
- また、「ポジティブ・アクション」57.7%、「女性の活躍推進法」31.0%、「ワークライフバランス」28.9%、「ユニバーサルデザイン」23.2%も認知度が低くなっています。

2 男女平等に関する知識について

問9 あなたは次にあげる分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。

▼男女の地位の平等意識が最も高い分野は「学校教育の場」

▼それ以外の分野では、「男性優遇」の回答割合が高くなっている

- 「学校教育」「職場」「家庭生活」「自治会や地域活動の場」など7項目について、男女の地位について聞いたところ、「平等」と答えた割合が最も高かったのは、「教育」の68.6%、次いで、「家庭生活」の39.9%となっています。
- 一方、「男性の方が非常に優遇」と答えた割合が最も高かったのは、「社会通念・しきたり」の23.4%、次いで、「政治や行政の施策・方針決定の場」21.9%、「自治会や地域活動の場」14.6%と続きます。
- これに、「どちらかといえば男性が優遇」と答えた割合を加えてみると、「社会通念・しきたり」54.0%、「職場」50.7%、「政治や行政の施策・方針決定の場」49.6%と大幅に高くなっています。

3 家庭生活等に関する意識・考え方について

問10 あなたの家庭では、次のことはどなたがされていますか。

▼「自治会活動」「地域活動」は男性、それ以外の大半は女性が担っている

- 「自治会活動」「地域活動」を除く各事柄について、女性は「ほとんど自分」「どちらかといえば自分」、男性は「ほとんど配偶者」「どちらかといえば配偶者」と答えた割合が高くなっています。その中でも、「家事」は特に高い割合となっています。
- 一方で、「自治会活動」「地域活動」において、「配偶者と同じ程度分担」していると回答した女性の割合も一定数あり、家庭によって違いがみられます。

問13 あなたの生活の中での、「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度についておたずねします。

▼希望と現実（現状）には差がある

- 男女とも「家庭生活」「仕事と家庭生活と地域・個人の生活のバランス」を優先したいと希望する割合が高いものの、現実には、男性は「仕事」、女性は「仕事と家庭生活」を優先している割合が高くなっています。

4 地域活動について

問14 あなたは、現在地域でどのような活動をしていますか。

▼男性は「自治会活動」の割合が高く、女性は「自治会活動」「趣味」「ボランティア」など幅広く活動している

- 男女とも「何も活動していない」（男性 20.0%、女性 35.7%）と答えた割合が一定数あるものの、男性は「自治会活動」と答えた割合が最も高く（70.0%）、「趣味・教養・スポーツなどのサークル活動」28.6%、「ボランティア活動」11.4%の順になっています。
女性は、「自治会活動」31.4%、「子ども会やPTA活動」18.6%、「趣味・教養・スポーツなどのサークル活動」17.1%、「ボランティア活動」11.4%と、幅広く活動していることがうかがえます。

問15 日野町は審議会や自治会役員などへの女性の参画割合が男性に比べ、少ない実態にあります。それはどうしてだと思いますか。

▼男女とも回答者の半数近くが「女性は家事・育児が忙しいので行政的活動に関わるのが難しい」、同様に約4割が、「行政に関心のある女性が少ない」と回答している

- 男女とも「女性は家事・育児が忙しいので行政的活動に関わるのが難しい」（男性 44.3%、女性 47.8%）と最も高く、次いで、「行政に関心のある女性が少ない」（男性 40.0%、女性 36.2%）と続いています。

問16 審議会への参加を求められたら、どうしますか

▼男女とも回答者の半数以上が「どうしてもと言われたら参加」と回答している。「積極的に参加する」女と回答した方は全体の1割未満であり「参加したくない」と回答した方は約2割であり高齢者層に多く見受けられた。

○男女とも「どうしてもと言われたら参加」（男性68.1%、女性60.6%）と最も高く、次いで、「参加したくない」（男性17.4%、女性25.8%）と続いています。

問17 あなたが住んでいる地域では①から⑤についてどのような状況でしょうか。

▼男女とも「会長は男性、女性は補助的役割が多い」「男女の役割分担など古い慣習やしきたりにとらわれやすい」「女性が役職に就きたがらない」と感じている割合が高くなっている

▼一方で、約65%が「男女が協力し合って活動している」と感じている

○「会長は男性、女性は補助的役割が多い」に「そう思う」と回答した男性は46.3%、女性は42.6%。「男女の役割分担など古い慣習やしきたりにとらわれやすい」に「そう思う」と回答した男性は23.9%、女性は27.7%。「女性が役職に就きたがらない」に「そう思う」と回答した男性は39.1%、女性は34.8%となっています。

○これに、「どちらかといえばそう思う」と答えた割合を加えると、「会長は男性、女性は補助的役割が多い」（男性91.1%、女性86.7%）、「男女の役割分担など古い慣習やしきたりにとらわれやすい」（男性77.6%、78.5%）、「女性が役職に就きたがらない」（男性86.9%、女性86.3%）と大幅に高くなっています。なお、「会長は男性、女性は補助的役割が多い」「女性が役職に就きたがらない」については、前回よりも数値が上がっており、依然として高い割合となっています。

○「女性の方が積極的で活発だ」において、「どちらかといえばそう思う」（男性28.4%、女性32.8%）、「どちらかといえばそう思わない」（男性44.8%、女性40.6%）と男女で意識の違いがみられます。

○「男女が協力し合って活動している」において、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合が男性61.2%、女性69.1%と男女とも6割以上あり、地域で協力し合っている様子が見られます。

5 防災について

問18 防災・災害復興対策について、性別に配慮した対応が必要だと思いませんか。

▼男女とも7割以上が性別に配慮した必要性を感じている

○「必要がある」と回答した男性は60.0%、女性は52.9%。これに「どちらかといえば必要がある」と答えた割合を加えると、男性85.7%、女性82.9%となり、前回と異なり男性の割合が増えています。

問19 (問18で1または2と回答した方)

防災・災害復興対策において、性別に配慮した対応が必要なことは何ですか。

▼9割の人が「避難所の設備」が必要と回答し、「避難所運営や被災者対応に男女両方の視点が入ること」と答えた人も7割が必要と回答している

▼それ以外の項目も4~5割近くの人が必要だと感じている

○「避難所の設備」について、男女とも9割以上の人性別に配慮した対応が必要と回答。「避難所運営や被災者対応に男女両方の視点が入ること」についても男女とも7割を超え、回答割合で見ると、男性の方がその必要性を感じていることがうかがえます。

問20 日ごろからつながりを感じられ、災害時にも助け合えるような地域社会をつくるためには何が必要だと思いますか。

▼約3割が「日ごろから話しやすい関係をつくること」、約2割が「子どもを地域で育てる、高齢者や障がい者を地域で見守る」という意識の啓発をすること」と答えている

○男女とも「日ごろから話しやすい関係をつくること」(男性25.3%、女性28.7%)と答えた割合が最も高くなっています。次いで、「子どもを地域で育てる、高齢者などを地域で見守る」という意識の啓発」と続きます。

○「自治会長や役員、自主防災組織に女性が増えること」についても、1割以上の人が必要と答えています。

6 仕事について

問21 次にあげる考え方について、あなたはどのように思いますか。

▼「男性は外で働き、女性は家庭を守る」という考え方については3割が賛成し、約5割の人が反対している

▼「女性は外で働き、男性は家庭を守る」という考え方には、約7割が反対している

▼「男性も女性も外で働く」という考え方については、約9割が賛成している

○「男性は外で働き、女性は家庭を守る」項目については、「わからない」と回答した人の割合が大幅に減少し、「反対」「どちらかといえば反対」の回答割合が上昇しています。

問22 女性の働き方について、あなたはどのように思いますか。

▼理想と現実には差がある

○理想では、一時的に仕事を辞め、子どもが大きくなったら再び職業を持つことを希望する人の割合が最も高い

○現実には、結婚・出産に関わらず、仕事を続けている(いた)人が多い

7 男女間における暴力について

問23 「ドメスティック・バイオレンス (DV)」に関して、あなたは暴力の被害を受けたことがありますか。

▼9割近くの男女がDV被害の経験はないと回答。しかし、1割の人が、5年以内にDV被害を受けた、過去に受けたことがあると回答

- 女性のうち1人(1.4%)が、この5年間にDV被害を経験していると回答しています。
- 男女とも「5年以内はないが、過去にDV被害を受けたことがある」と回答しています。

問24 「セクシュアル・ハラスメント」に関して、あなたは経験したり見聞きしたことがありますか。

▼女性の約2割がセクハラを受けたことがある

▼男女とも約2割の人が「うわさを耳にしたことがある」と回答している

- 男女とも「セクハラをしたことがある」と回答した人は無く、男性もセクハラ経験はないと回答しているものの、女性の約1割、男性も2名がセクハラを受けた経験があると回答しています。
- また、「うわさを耳にしたことがある」と回答した男女は2割を超え、「身近に当事者がいる」と回答した割合を加えると、全体で3割近くになっています。

8 男女共同参画社会について

問25 男女共同参画社会について、あなたのお考えに最も近いものはどれですか。

▼7割近くの人が「男女共同参画社会の実現を目指して取り組み必要がある」と考えている

- 「男女共同参画社会の実現を目指して取り組む必要がある」と回答した人は、男性79.4%、女性58.3%となっています。一方で、女性で約4割、男性で約1割の人が「わからない」と回答しており、「男女共同参画」「男女共同参画社会」についての認識・意識不足に課題があると考えられます。

問26 政治や行政、自治会などにおいて、政策の企画や方針を決める場に女性の参画が少ない理由は何だと思えますか。

▼5割以上の人が「家事、子育て、介護の負担が大きい」「女性自身の積極性が不十分」と考えている

▼「男性優位の組織運営のため」「女性の参画を進めようと意識している人が少ない」と考えている人が3割以上いる

- 「女性自身の積極性が不十分」(男性55.9%、女性55.9%)を理由にあげている割合が

最も高くなっています。次いで「家事、子育て、介護の負担が大きい」（男性 45.6%、女性 58.8%）、「男性優位の組織運営のため」（男性 50.0%、女性 26.5%）と続きます。

○「家庭、職場における役割分担、性差別意識のため」と回答した割合は 2 割程度にとどまっています。

問 27 「男女共同参画社会」を実現するために、町が特に力を入れていくべきことは何ですか。

▼「子育てや介護で離職した人のための就職支援」「子育てや介護中でも仕事ができるよう支援」「子育て支援を充実させる」「高齢者や病人の施設やサービスを充実させる」の順に高くなっている